

氏名	藤 井 章 伸		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学 位 授 与 番 号	乙 第 1470 号		
学 位 授 与 の 日 付	昭和59年 6 月30日		
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）		
学 位 論 文 題 目	本態性高血圧症患者の運動負荷ベクトル心電図		
論 文 審 査 委 員	教授 木村郁郎	教授 太田善介	教授 寺本 滋

学位論文内容の要旨

本態性高血圧症の心電図にみられる，左室高電位に伴う ST-T 変化の成因を鑑別するため，本態性高血圧症患者に亜最大運動負荷を行ない，負荷前後で，Frank 法ベクトル心電図を記録し検討した。

1) 本態性高血圧症患者のうち，標準12誘導心電図が正常である群と左室高電位のみを示す群は，ほぼ健常者群と同様な変化を示した。

2) 左室高電位にいわゆる strain pattern を伴う群では，空間最大TベクトルやT環の形態の変化は，健常者群や虚血性心疾患患者群とは異なっており，また，左心肥大は高血圧症群の中でも著明であることより，その ST-T 変化は左室高電位に伴う二次性変化と考えられた。

3) 左室高電位に strain pattern 以外の ST-T 変化を示す群では，空間最大Tベクトルの大きさやT環の形態は，虚血性心疾患患者群のものと類似していることより，その ST-T 変化には心筋虚血による一次性変化の影響が大であると考えられた。

論文審査の結果の要旨

本研究は本態性高血圧症患者の運動負荷ベクトル心電図について臨床的に研究したものであるが，従来十分確立されていなかった ST-T 変化の成因について左室高電位に伴う二次性変化以外に心筋虚血による一次性変化の影響によるもののあることを認め，本症の予後にも関連して重要な知見をえたものとして価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。